

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『クロノタイプ間の睡眠圧力の変動に関連する暗黙の気分変化』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2022年6月7日より2024年12月31日までの間に、睡眠・覚醒障害研究部で「ヒトの時計老化年齢を評価する血液バイオマーカーの探索とその応用(NCNP 倫理委員会承認番号:A2022-016)」の研究に参加された方

【研究期間】

研究実施許可受領後より2025年3月31日まで

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部
北村 真吾

研究名称: クロノタイプ間の睡眠圧力の変動に関連する暗黙の気分変化

利用目的: 私たちのからだには、毎日規則的に睡眠をとるための仕組みとして体内時計がそなわっています。体内時計には個人差があり、人によって長さやタイミングが少しずつ違っています。その個人差を表す概念がクロノタイプ、いわゆる朝型夜型です。クロノタイプは一人ひとりが少しずつ違った朝型・夜型傾向を示すものと考えられており、主にアンケートで判定されます。クロノタイプは体内時計や睡眠のタイミングが違うだけでなく、さまざまな健康状態との関連が知られており、代表的なものとしてうつ病があります。夜型クロノタイプの方は朝型の方に比べてうつ病になりやすい傾向を持ちます。一方、夜型クロノタイプの方は徹夜に強いという特徴もあり、また、徹夜をしたときの気分改善効果が大きいという報告もあります。この徹夜による気分の改善効果はうつ病の治療に用いられることもあります。そのため、夜型クロノタイプの方でどのように気分改善効果が生じるのかを調べることで、うつ病が起きる原因の手がかりが得られると考えられます。気分の細かな変化を客観的に調べられるテストとして潜在連合テスト(IAT)というものがあります。このテストを使うことで、徹夜のときの気分変化を詳しく調べることができます。

作成年月日： 2024年 1月 29日 第1.0版

本研究は、気分の変化のクロノタイプの違いを確認して睡眠不足の気分に及ぼす影響を調べることを目的としています。

利用方法： コンスタントルーチン法前後で収集されたクロノタイプ質問紙(MEQ/MCTQ)、潜在連合テスト(IAT)、眠気の評価(VAS、KDT)を用いて、気分変化に対するクロノタイプの違いと睡眠不足の気分に及ぼす影響をその他のデータと併せて探索的に調査いたします。

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

【利用する情報等】

情報等：活動量計、終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)、クロノタイプ(MEQ、MCTQ)、睡眠状態(PSQI)、日中の眠気(ESS)、気分状態の質問紙(CES-D)、夜間唾液メラトニン、眠気・気分状態の質問紙(VAS)、精神運動試験(PVT)、潜在連合テスト(IAT)、Karolinska Drowsiness Test(KDT)、デモグラフィック情報(年齢、性別、身長、体重など)

利用する情報の取得の方法

情報：研究データから入手

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
所属 睡眠・覚醒障害研究部 氏名 北村 真吾

電話番号

e-mail: s-kita※@ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail: ml_rinrijimu※@ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

nrijimu※@ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)